

犀川水系流域委員会第1回総合部会 結果概要

1. 開催日時

日時：平成15年12月26日（金） 13：30～16：00

場所：石川県庁第1105会議室

2. 出席者 6名

玉井部会長（流域委員会委員長）、川村委員、北浦委員、三森委員、池本委員、山本委員（1名欠席：矢島委員）

3. 検討内容

議題1 犀川の河川環境について

[事務局説明]

環境調査の実施状況及び「河川環境管理基本計画（H6策定）」の概要について。

河川環境管理を行う上で、犀川水系全体を5ブロックに区分し、各ブロックの基本理念および基本方針を踏まえた管理方針を掲げて全流域の環境保全、魅力ある河川空間の創出に努める。

[質疑応答]

（委員）河川水辺の国勢調査の結果、生物種や個体数に変化はあるか？

（事務局）今年度調査結果はまだ出ていないが、H10までの調査結果ではアカザ等の貴重な魚介類も確認されている。

（部会長）河川環境管理基本計画では、水質の関係についてはどのように把握しているのか？

（事務局）水質に関する管理については、方策を検討していくという段階であったことから織り込んでいない。

議題2 河道整備の現況と課題について

[事務局説明]

犀川水系河川整備計画における犀川の河道整備区間は、河口からJR橋までの7,350m区間と、鞍月用水堰上流部約600mの区間である。

河川環境管理基本計画に従い、生態系や景観、親水性に配慮した整備を進めている。

鞍月用水堰上流区間の整備の課題は、流下能力の確保、河川環境の保全、親水空間の確保、鞍月用水の取水機能の確保である。

支川の整備については、本川が十分な流下能力を確保出来ていないことから、暫定断面での改修を行っている。

[質疑応答]

（委員）犀川下流については、流量規模を820m³/sから1,900m³/s 或いは2,100m³/sで整備中とのことであるが、進捗状況は？

（事務局）H14年度末事業費見合いで、46.1%である。H20年度までに示野中橋までを計画規模1/10、H21年～H25年までに外環状までの区間を計画規模1/100、H28年度までに全区間の改修を完了する目標である。

（委員）護岸法面の植生は、この地の固有種を使うべきだと思うが、現在どういう植生を行っているか？

（事務局）現在、植生土嚢を使っている。土嚢内部の種については調べてみる。種については、適材適所に自然環境を十分配慮して研究したい。

（委員）安原川等の支川についても、犀川と同じ整備がなされているか？

（事務局）犀川本川自体が十分な治水安全度を持っていないため、まず治水安全度を高めることが目標である。

（委員）鞍月用水堰は、現在どのくらい切り下げるつもりなのか？

（事務局）最大2mくらいである。

（委員）鞍月用水堰右岸側における地下水への影響はどうか？

（事務局）調査を進めたい。

（部会長）水面が2m下がると、用水に水が入らなくなるが、その手当ては？

（事務局）現在、上流から犀川の水を引込み、水路で現在の取水口に取付けることを考えている。

- (委員) 現計画では、現鞍月用水堰はそのままか、改修されるのか？
- (事務局) 堰の高さを2m下げるので、当然魚や色々な生態系を考慮して実施する必要がある。現鞍月用水堰は魚道が設置されているので、改修すればそれに見合ったことも必要かなと思う。
- (委員) 鞍月用水堰付近は、拡幅工事をするのか？その影響は？
- (事務局) 河床の掘り下げを考えており、工事による植生への影響については、治水と環境の兼合いを今後考える必要がある。
- (部会長) 鞍月用水堰周辺の環境調査は、詳しく行われているのか？
- (事務局) 河川水辺の国勢調査、環境管理基本計画の調査、文献類が主であるが、現地調査も行っている。今後は専門家のご指導も得て、不足分については調査したいと思っている。

議題3 辰巳ダム新構想の課題について

[事務局説明]

辰巳ダム新構想について具体的な構造を検討する前提として、犀川ダム工業用水の取扱について金沢市との議論の結論を待っている。

辰巳ダムの建設位置を上流側にずらすことにより、辰巳用水の東岩取水口の保全を図る。また既存のダム容量を有効活用し、3ダム連携運用による辰巳ダムの規模のコンパクト化について環境面、技術面から検討する。

技術的な検討課題として、ダムの事業費、ダムの適正な規模、ダムの構造を総合的に考え、辰巳用水の保存、環境への影響等の諸問題も含めて総合的に評価し、現ダム計画と比較して新しい計画がより適切であるかどうかを確認する必要がある。

昭和62年度に取りまとめた「環境影響評価書」において、貴重種の保護、保全の観点からダムの工事による影響及び新たなダム湖の出現による影響について評価している。また、環境保全策として、水質、景観、辰巳用水の保全や工事中の環境保全対策を評価し、対策についてコメントしている。

辰巳ダム新構想に伴い、ダムの規模を縮小する方向での検討としており、これに準じた形での環境影響評価を専門家や有識者のご意見を聞きながら取りまとめた。

[質疑応答]

- (委員) ダム上流域でどんな生活廃水が流出しているのか、調査を行ったのか？
- (事務局) その影響は少ないと考えているが、これまでの調査結果も踏まえて、今後議論していくことになる。
- (委員) 一番の懸念は、溜水時の残留間隙水圧上昇による法面崩壊である。貯水池付近について、地形等を調査すべきではないか？
- (事務局) 当方では、貯水池周辺の現地踏査を行い、地滑り等が予見される箇所は調査を行っている。今後は専門家等のご指導を仰ぎたい。
- (委員) 貯水池水質の維持保全について、どう考えているのか？
- (事務局) 過去の検討結果では、極端な富栄養化はないということであるが、今後議論の対象に入ってくる。
- (委員) 資料には流域についての動植物土地利用の調査結果がある。事前に矢島委員等から意見を聞かれたのか？
- (事務局) 個別に専門家の意見は、お聞きしている。
- (委員) ダムの堆積容量として、どのくらいを考えているのか？
- (事務局) 今後のダム構造で、詳細に検討したい。
- (委員) 辰巳ダム建設によって、維持流量はどのように確保されるのか？
- (事務局) 内川ダムや犀川ダムに振替え、維持流量の確保を考えている。

議題4 今後の検討スケジュールと進め方について

(玉井部会長) 河道に関して、下流側と鞍月用水堰及び上流部の話があり、堰の高さを下げることについては、具体的に詳細な議論が必要である。辰巳ダム新構想も、本体の問題が決まらなると環境に関する議論も進まないことが明らかになった。

従って、施設に関する専門部会を設け、技術的・専門的な観点から議論を具体的に進めることとしたい。施設の専門的な部会には、当部会から北浦委員、川村委員、山本委員には、ぜひ議論をお願いしたい。その他のメンバーについては、ご相談のうち決めたい。環境については、当面はこの基本部会で進めていき、他の専門家の参加を仰いだ方がいいと判断した場合は、別途議論したい。